

【事務事業調査】

事務事業名	学校給食町内産利用拡大事業費		予算科目 コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
				10-05-03-003-01-01
担当部課	教育部 子どもみらい課	担当	給食センター	事業の分類
		係長	糸井 鉄夫	

■事務事業の概要

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	<p>H22 事後評価</p> <p>町内産の農産物を用いたメニューを積極的に導入し、地産地消の推進を図るとともに、学校栄養士による学校での食指導の実施や、「学校給食だより」で保護者に向けた地産地消メニューを紹介するなど、食育に関する啓発活動を行いました。H22の給食は191回実施し、うち米飯給食は137回、パン給食は54回でした。 なお、東日本大震災の影響で、3月14日～23日は提供できませんでした。</p> <p>H24 事前評価</p> <p>1.「地産地消メニューの日」の継続実施、地場産物を活用した郷土料理や行事食を給食メニューに活用するなど、給食メニューへの地場農産物活用促進を図ります。 2. 献立表に町内農産物をわかりやすく表示したり、給食だより等を活用し生産者の紹介、給食メニューを町ホームページに掲載など、情報の発信を実施します。また、学校栄養士による食指導を実施し、食の重要性などの指導を図ります。 3. 食の安全性を担保するため、関係機関と連携して情報の収集を図ります。</p>	<p>学校給食での地場産物の活用は、農業者には、「安心・安全で新鮮な食材を提供する」という意識が生まれ、生産意欲の向上に繋がります。児童・生徒には、食を大切にする心や郷土を愛する心が醸成されます。また、保護者の食への関心も高まります。</p>
実績		

■活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
学校給食における町内農畜産物の利用割合	56.0%		給食に利用している地元農産物の品目数 H21 町内産野菜穀類使用品目と使用料 43品目 54.6% 前年度より町内農畜産物の使用量を増やしていきます。

■事業費(計画)

【単位:千円】

細 節	金 額	積 算 根 拠
1	139,552	小学生分@4,200×1,680人×11月= 77,616,000 小教職員@4,200× 145人×11月= 6,699,000 中学校分@5,000× 870人×11月= 47,850,000 中教職員@5,000×75人×11月= 4,125,000 教委分 @4,200×50人×11月= 2,310,000 給食センター分@4,200×26人×11月= 1,201,200 給食分200回×9施設×@250= 450,000 給食会等分200食×@
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	139,552	

■事業費(実績)

【単位:円】

細 節	金 額	特 記 事 項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
	0	

■事業経費

		計 画 【千円】	実 績 【円】	特 記 事 項
予 算	当初予算額	139,552		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決 算	決算額			
財 源	国庫支出金			
	県支出金	345		たくさん食べよう栃木のお米推進事業費補助
	地方債			
	受益者負担金	138,552		給食費保護者負担金
	その他の特定財源			
	計	138,897		
	差引(一般財源)	655		